

首(かしら)いろいろ

人形浄瑠璃の人形は、美しく精巧せいこうにできています。特に、かしら(顔の部分)は、年齢や役がらを表す大切な働きをします。かつらや衣装をかえることによって、いろいろな役に使いわけられます。



【娘(むすめ)】

14,15歳からの未婚の女性や若女房。

美しく可憐かれんなかしら。

『冥途の飛脚』梅川

『曾根崎心中』お初

『心中宵庚申』お千世



【老女形(ふけおやま)】

20代から40代の中年の女性。

『心中天の網鳥』おさん



【傾城(けいせい)】

もっとも華麗かれいなかしら。

最高の位の遊女としての教養をそなえ、色気と意気地をもつ。

『壇浦兜軍記』阿古屋

『ひらがな盛衰記』梅ヶ枝



【源太(げんた)】

20歳前後の色気ある二枚目。

『仮名手本 忠 臣蔵』若狭之助

『冥途の飛脚』忠兵衛

『曾根崎心中』徳兵衛



【文七(ぶんしち)】

線の太い男性的な顔立ちで、じっと耐える悲劇の主人公にふさわしい。

『菅原伝授手習鑑』松王丸

『絵本太功記』光秀



【又平(またへい)】

素朴で正直一途な役に使われる。

『傾城反魂香』又平



【陀羅助(だらすけ)】

下品で嫌味な敵役に使われる。

『冥途の飛脚』八右衛門

『心中天の網島』太兵衛